

参一發第七十二號  
田中支隊  
山田支隊

参一發第七十二號

大正八年三月八日

参謀總長

通報

「ユフタ」及「パウロス」附近戦闘、詳報別紙、如シ

田中支隊

山田支隊

MT

16324 17

0721

REEL No. 1-1311

0064

函台後明ノ名見多ク其旨  
此レ之代用也  
三  
松平

合日  
總長  
報別紙ノ如シ

MT

16324 17

0721

REEL No. 1-1311

0065

ユフタ 附近田中大隊戦闘ノ情况

田中歩兵少佐(勝輔)ノ指揮スル歩兵第七十二聯隊第三大隊(第九第十二中隊欠)ハ山田支隊ニ増援スヘキ任務ヲ以テ二月二十二日午前十時「ハバロスク」發車二十四日午前二時「ホチカレオ」ニ到着スルヤ更ニ山田支隊長ヨリ「ユフタ」附近ニ前進シテ敵ノ背後ヲ攻撃スヘキ任務ヲ受ケ同日朝「ホチカレオ」出發途中「アレキセフスク」ニ森山中尉(俊秀)ノ率ユル一小隊ヲ残置シ同日夕「ユフタ」ニ到着ス

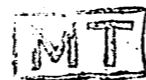
二十五日朝午前八時田中少佐ハ香田少尉(曉雄)ノ率ユル歩兵一小隊ヲ「スクラムレフスコエ」方向ニ派遣シ情况ヲ偵察セシム同小隊ハ午後四時頃「スクラムレフスコエ」ニ達スルヤ敵兵五六十同村端ヲ占領シアルヲ知り直チニ之ヲ攻撃セリ

MT 16324 17 0722

然ルニ敵ハ漸次兵力ヲ増加シ其數四百以上ニ達シ漸次西翼ヲ包圍セントスルノ形ヲ示シ死傷續出シ頭ル苦戰ノ情况ニ陥レリ然レモ勇敢ナル小隊ハ向ヒ突撃ヲ敢行シ敵ノ第一線ヲ突破シテ村内ニ侵入セルモ優勢ナル敵ノ爲ニ全重圍ニ陥リ奮戦ニ終リ隊長以下悉ク戦死シ辛クテ負傷者四(内一ハ途中ニテ死ス)歸還セルノミ田中少佐ハ香田小隊長ノ情况ヲ知リ大隊ヲ率イテ「スクラムレフスコエ」ニ前進シテ敵ヲ攻撃スルニ決シ二里ノ森林ニ於テ一時出發午前八時頃「チニテイノカ」西方約一里ノ地ヲ占領セシ行軍縱隊ヨリ展開シ一部ヲ以テ西方高地ヲ占領セシ猛烈ニ攻撃ヲ開始シ大隊ハ全ク敵ヨリ包圍セラレル

MT 16324 17 0723

至リ死傷續出頗ル不利ノ形勢ニ陥リシモ苦戦奮闘雲  
 霞ノ如キ大軍中ニ突入白兵ヲ奮テ格闘シタルモ寡敵  
 セス全大隊悉ク戦死シ大ニ敵ノ心膽ヲ寒カラシメ日本  
 軍隊ノ本領ヲ發揮セリ  
 同日「アレキセフス」ニ在リシ西川大尉ハ野砲兵第十聯隊第  
 五中隊(一小隊欠)又歩兵第七十二聯隊第十一中隊ノ一小隊  
 ヲ指揮シ田中大隊ヲ増援スヘキ任務ヲ受ケ午前九時ア  
 レキセフス」出發途中山田少將ヨリ前進スヘキ命令ニ接セ  
 シモ折柄露國哥薩克隊ヨリ田中大隊激戦ノ情況ヲ知り獨  
 断之ヲ救援ヲナスニ決シ前進中俄然優勢ナル敵ニ遭遇  
 ス茲ニ於テ西川大尉ハ高地ニ砲列ヲ布キテ砲撃ヲ開  
 始シ歩兵小隊ヲシテ猛烈ニ敵ヲ攻撃セシム然ルニ敵ハ  
 益々兵カヲ増加シテ漸次我兩翼ニ迂回シ全ク包圍ニ陥リ



16324 17

0724

死傷續出シタルモ敢然攻撃ヲ續行シ砲兵ハ最後ノ一兵  
 ニ至ル迄砲撃ヲ繼續シ歩兵小隊ハ小隊長森山中尉(後方)  
 率先敵陣地ニ突撃シ奮戦格闘シ悉ク戦死シ生存スル僅  
 ニ五名ノミ  
 本戦闘ニ參與セル敵ノ兵力ニ乃至三千ト稱ス彼我ノ死  
 傷左ノ如シ

0725

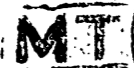
我軍

- 戦死 特校 一
- 歩兵少佐 田中勝輔
  - 歩兵大尉 松原信浩
  - 歩兵中尉 林島宿禰
  - 歩兵中尉 松島宿禰
  - 歩兵中尉 森山俊秀
  - 一等軍醫 竹本源一
- 下士以下 二九〇
- 通譯 二

員傷 九

敵軍

詳カナラサルモ戦場ニ遺棄セル死体ノミニテモ約  
 四百ニ達ス



16324 17

390897

ハウロフスヨ 附近山田支隊戦鬪、情況  
 高橋歩兵大佐ハ「タルボゴ」附近、過激派ヲ討伐スヘキ任  
 務ヲ以テ三月二日「ホチカレ」發途中小數ノ敵ヲ驅逐シニ  
 日「ワウロフス」西北約三吉米無名村落ニ達シ三日午前同地  
 發午前六時三十分「ハウロフス」附近ヲ占領シ在ル敵ヲ攻撃  
 ス然ルニ我第一線敵前四五百米ニ接近スルヤ敵ハ其兵  
 カヲ兩翼ニ延伸シ攻勢ニ轉シ來レルヲ以テ我ハ猛烈ナ  
 ル砲兵及機關銃火ニ依リ之ヲ阻止シタルモ一時敵ノ包  
 圍攻撃ヲ受テ苦戦ニ陥リシカ午前十時「ワウロフス」方向  
 ヲリ前進シタル高橋少佐ノ指揮スル部隊ノ左側ヨリ我  
 攻撃ニ參與スルアリ同三分隊相呼應シテ敵陣地ニ  
 突撃シ格鬪、後其機關銃一ヲ奪ヒ敵ヲ潰乱セシム  
 敵ノ兵力千五百ヲ下ラヌ潰乱シテ其大部ハ「タルボゴ」方

MT 16324 17 0726

向ニ一部ハ「ホセエフカ」方向ニ退却セリ  
 此戦鬪ニ於ケル彼我ノ死傷左ノ如シ

我軍

戦死 將校三

砲兵大尉 富山政之丞  
 豫備歩兵中尉 吉廣慶喜  
 歩兵准尉 中島政喜

下士以下三九

負傷 將校三

砲兵大尉 富山政之丞  
 砲兵准尉 田中周平

下士以下八〇

敵軍

損害約五百ヲ下ラス戰場ニ遺棄セル死屍少

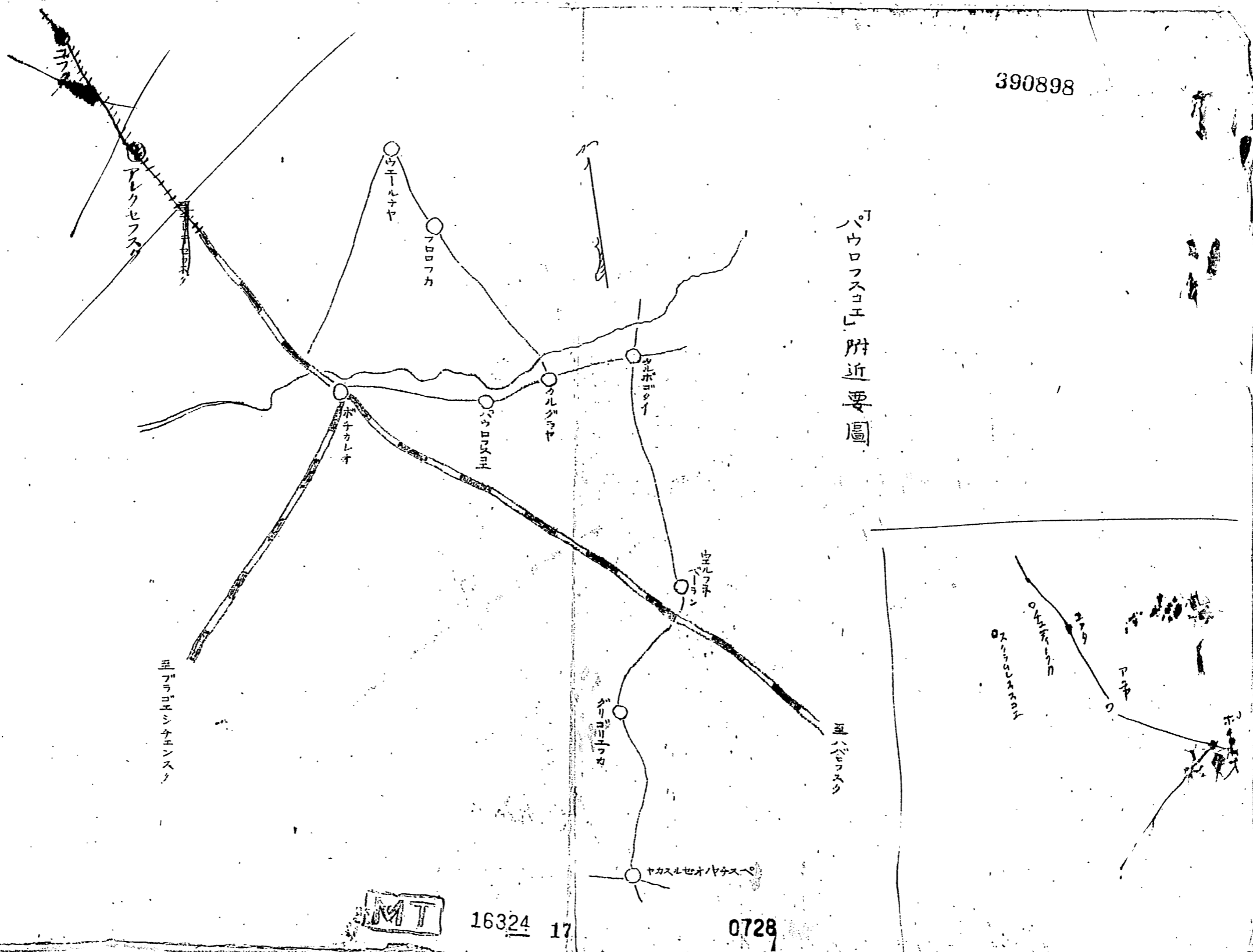
山田少將ハ敵ヲ急追シテ主力ヲ以テ五日午後六時「ハスナ  
 ヤノ、オセルスカ」ニ達ス

MT 16324 17

0727

390898

ハウロフスコエ 附近要圖



REEL No. 1-1311

0069

大正八年四月八日 記録第三部 陸軍

5390899



三〇三  
内閣外務大臣

第五七號

平塚副官

政務部長へ  
龍ノ通電報セリ

第七三號

敗敵ノ主力ハ三月十九日以来漸次  
ポピタヤノ驛ノ北方數里ノアブラモ  
カノ方面ニ退却中ニテ其兵力約千  
砲三内ヲ有ストイフ依テ山田中隊  
一日以後ハ大井師團長麾下ニ在ル部  
隊ニテモ其退却ノ速ニテハ  
大正八年四月八日 記録第三部 陸軍

騎兵百余名ヲ和機関銃隊ニ送ル  
又ハ十三日以來各方面ヨリ包圍  
堅甲敗敵ノ一部約二三百名ハ十三日  
アカテリノカノ驛ヨリ退却  
敵ニサビタヤノ驛ノ北方ニ橋梁  
石老木橋五個ヲ破壊シテホカカ  
方面ニ進ミタルモノ知シ汽車ハ不  
通トテリ往來セザル結果行テハ未  
タ其後ノ詳報ニ待セズ  
大臣ハ電報モタリ

大正八年四月八日 記録第三部 陸軍

MT 16324 17 0730

16324 17 0729

REEL No. 1-1311

0070



390900



號受08219

大正八年三月廿一日接獲

對政務部 參謀

三月十九日

電報

參謀次長宛

在

三月十九日午前〇時三十分接  
浦潮軍參謀長

浦參第六〇一號

土肥原報

督軍署密電所員曰、過般來飽督軍、黑龍江方面過激激、情況及ヒ之、對スル省內國境防備、薄弱ナルコト及ヒ「ケタ」ガウリヤ方面蒙古軍ノ兵員ヲ集ル不穩形勢アリテ之レニ備フル為更ニ兵力增加ヲ要アルコトヲ中史ニ報告シアリレカ昨日中史ヨリ電報ヲ以テ參戰軍成立セハ之レヲ何宗連ノ指揮ニ屬シ國境防備ニ任センメントノ議アリトテ飽督軍ノ同意ヲ求メ來レリト依テ之レヲ張

陸軍

參謀長ニ記シタルニ中史ニ此ノ議アルハ主トシテ目下南方督軍ハ表面參戰軍ノ解散ヲ力説シアル先豫メ之レカ用途ヲ明カニスル必要ヨリ起リタルモノニテ何特實行セラルルヤ元ヨリ未定ナリト云々ト語レリ

北京濟

MT

16324 17

0732

MT

16324 17

0731





390902

要旨付 秘授03427號

第7門

大正八年三月廿五日接受

駐露務高

第2課

或我多之味(譯自四号)

大臣全文

三月二十一日

電報

三月二十日午後五時三十分發  
三月二十日午前六時九分著

參謀總長宛

在 坂西少將

坂極秘電第ニ七號

去十六日山岡海軍少將照會旁々殷稜端ヲ訪問セシニ  
彼ハ參戰督辦トシテ參戰軍統率者名偶々西南人  
ニ私兵養成ノ口實ヲ與工自己ノ保持スル國家主義ヲ嫌  
アルヲ以テ近ク此カ關係ヲ絶ツシト明言シ且ツ參戰軍  
ハ例ハ英米公使等ノ勸告アルモ断シテ解散スヘキモノ  
ナラス又軍隊編成解散等ハ外國ノ干渉ヲ容認スルヲ能  
ワス英米公使等ハ參戰軍ニ反對スルニアラステ一日  
本ノ勢力ヲ排斥セントスルモノナリ云々ト語レリ

陸軍

委細次キ 各地済

MT

16324 17

0736

MT

16324 17

0735

390903



受03514號

大正八年三月廿七日接受

駐政務(第)課

加藤

大正八年三月廿七日

大臣同文

三月二十六日

電報

三月

二十四日午後九時、奉命發  
二十七日午後五時、奉命發

參謀總長宛

在

坂西少將

坂西第三十八號

本二十四日督練新雲鵬在北苑參戰軍第一師、關兵  
ヲ行ヒ終リテ一場、訓示ヲナセリ此日小官下元少佐ヲ從ハ參列  
視察セル所尤、如シ

一 將校以下ノ志氣ハ概シテ緊張シ烈風砂塵ヲ卷クノ間  
ニ在リテ數時間直立シテ倦怠ノ色ヲ見ス

二 人員中少クモ戰列兵ハ完全ニ充實セルト認ム

三 馬匹ハ未ク全ク充實スルニ至ラズ持ニ此裝備ニ至リテハ頗ル不  
充ナルモ被服ハ概シテ一定ノ制式ニ依ルヲ得タリ

陸軍

四 新募兵ハ概シテ年若ク身體強壯ナリ真ノ無學者ハ多  
クモ四分ノ二ニ達セザルモノノ如シ

五 訓練ヲ進歩セルモノノ如ク特ニ目送迎、關兵(不明) 密  
集隊形ヲ以テ概シテ正々ニ動作セルヲ見ル

MT 16324 17

0738

MT 16324 17

0737

REEL No. 1-1311

0074

天

第3  
第257號  
大正八年三月廿一日接受  
警務部 第一課

萬曆第二五七號

大正八年三月二十八日

京都府知事 馬淵銳太郎

和印

内務大臣 床次竹二郎殿  
陸軍大臣 田中義一殿  
外務大臣子爵内田康哉殿

歸還軍人ノ言動内查ノ件

管下在郷軍人ニシテ曩ニ第十師團動員部隊ニ應召西  
比利更ニ出征中今回復員歸郷セシモノ、感想其他ニ付其言  
動ヲ内查スルニ尤記ノ通ニシテ何等思想上变化ヲ來タセル  
形跡無之

京都府警察部

右報告候也

一戰地ノ狀況ハ混沌トシテ吾等ニ於テ其詳細ヲ知ル不能  
モ聯合各國兵士間ニハ往々紛擾ヲ來シ相反目シ常ニ融  
和ヲ欲クヤノ觀アリタリ  
一我軍ノ勇敢ナル行動ト軍律ノ嚴正ナル英ニ敏ノ認  
ムル處ニシテ殊ニチエツク軍ノ我軍ニ對スル信用ト賞  
賛ハ吾等ヲシテ一層自重ノ念ヲ起サシメタリ然レトモ一  
面ニ我醜業婦ノ多キニハ常ニ恥辱ヲ感シタリ  
一露國某砲兵隊長ハ其ノ下僚ノ狙撃ヲ受ケ死亡シタル  
等其ノ紀律ノ廢頓セルニ反シ我軍ハ上下一致紀律嚴  
然トシテ克ク其ノ本分ヲ盡シタルニ對照シ轉々感慨ニ  
不堪露國ノ狀態ニ鑑ミ我國ノ文物制度ハ眞ニ吾等  
ノ幸福トスル處ニシテ金瓯無缺ノ我國体ヲ思ヒ一層奉公

MT 16324 17

0740

MT 16324 17

0739

REEL No. 1-1311

0075

心ヲ堅メタリ  
 〔彼ノ地ノ寒氣凜烈ナリシハ想像以外ナルモ幸ニ防寒具  
 其他ノ給與充分ナリシ為メ別ニ苦痛ヲ感セザリシモ將ニ  
 不便ヲ感シタルハ言語ノ通セザリシ為メ萬事意ノ如クナ  
 ラザリシトナリ然レトモ我々同胞ヨリ常ニ種々ノ方法ニ依リ慰  
 問セラレタルト又郷里ノ通信ニ依リ在郷軍人會及役場等  
 ヨリ家族ヲ慰問シ種々援助セラレタルコトヲ知リ何等後  
 顧ノ憂ヤク一心ニ軍務ニ服シ得ラレタルコトヲ深ク感謝シ  
 タリ  
 〔我軍ノ紀律正シキニハ露国人モ非常ニ信用セル模様ナルモ  
 外人ノ何事ヲスルニモ金鉢ヲ散シテ彼等ノ歡心ヲ迎ヘツ  
 アルニハ〕驚ヲ喫シタリ云々

京都府警察部

MT 16324 17 0741

390906

必群

大正八年一月以後過激派掃蕩ノ情況

大正八年三月陸軍省

MT 16324 17

0742

REEL No. 1-1311

0077

## 大正八年一月以後過激派掃蕩ノ情況

昨年八月我軍ノ出動ニ依リ一瀉千里ノ勢ヲ以テ掃蕩セラレタル極東露領ノ過激派ハ精銳ナル我軍ニ抵抗スルコト能ハサルヲ知り各地ニ分散セシカ其大部ハ合撃包圍ニ會ヒテ「ブラゴエシチエンスク」及其附近ニ潜伏シ閉息沈黙スルニ至レリ

茲ニ於テカ西比利亞ニ於ケル我軍ノ行動之ニ關聯セル政務及運輸交通ニ關スル一切ノ事項ヲ統一指揮スルニ便センカ爲メ是等ノ業務ヲ舉ケテ浦潮派遣軍司令官ニ屬シ新ニ第三第七師團等同官ノ指揮下ニ入レ同時ニ將來ノ極東露領ニ於ケル行動方針ヲ確定スルヲ必要トシ派遣軍司令官ヲシテ漸次兵力ヲ重要地點ニ集結セシメ以テ該地方ノ治安確保ヲ本旨トシ配兵地點以外ニ發生シタル過激派其他ニ因ル騷擾ニ對シテハ我軍ノ自衛上必要ナル者ノ外ハ可成露國官憲ヲシテ之カ鎮定ニ從ハシメ其力足ラサル場合ニ於テ適應ノ措置ニ出ツルコトト爲サシメタリ即チ其趣旨ハ露國ノ穩健分子ヲ援助シ治安ヲ維持スルヲ以テ一般ノ方針トナサントスルニアリ

然ルニ一度四散潜伏セル過激派ハ陰微ノ間ニ再舉ノ計畫ヲ立テ先ツ各村ニ代表者ヲ置キ要地ニ支部ヲ設ケ密カニ軍隊ヲ募集シ赤軍ノ名ヲ改メテ國民軍トシ暗々裏ニ勢力ヲ養ヒ着々其計畫ノ步ヲ進メ既ニ衣食ニ窮迫セル過激派兵卒ハ三々伍々潜伏地ヨリ出テテ之ニ加ハリ不穩ノ形勢日

MT 16324 17

0743



ニ増スニ至レリ特ニ彼ノ武市附近ヲ根據トセル首領「ムーヒン」指揮下ニ在ル者最モ活氣ヲ呈シ一月十日三四百ノ過激派カ「アレキセーフスク」東北方約十里ナル「マザノワ」ノ我カ小哨ヲ急襲セシヨリ彼等ノ計畫漸ク曝露セシカ此間所在浮浪ノ徒附和雷同シ無智ノ農民之ニ投シ良民ノ財帛ヲ掠ム然ルニ偶々本年一月ノ巴里平和會議ニ於ケル「プリンス」島ニ露國過激派代表者ヲ招致スルノ問題ハ彼等ヲシテ米國カ自派ニ聲援ヲ與フル者ト誤解シ昂奮セシムルトコロアリシカ如シ茲ニ於テ陸軍當局ハ更ニ軍司令官ニ指示シ極東ノ治安ヲ攪亂スル目的ヲ以テ我軍ニ反抗スル者ニ對シテハ抑壓ヲ加フヘキヲ以テセシカ敵ハ益々其兵力ヲ集結シ遂ニ大舉武市ヲ屠ランコトヲ企テ我軍ノ守備地ヲ犯シ或ハ鐵道ヲ破壊シ電線ヲ切斷スル等日ニ我守備軍ヲ脅迫スルニ至レリ然ルニ露國官憲ノ力到底之ヲ制壓シ得サルヲ以テ第十二師團長ハ豫テ指示セラレタル方針ニ基キ彼等ニ大打撃ヲ加フルニ非ラサレハ到底黑龍州ノ治安ヲ維持シ得サルニ顧ミ「ブラゴエシチエンスク」附近ノ守備部隊ヲシテ露國ノ黑龍州大隊ト協同シ之カ掃蕩ニ從事セシメタリ其概況次ノ如シ

第十二師團高橋支隊(歩兵五五〇騎一小野砲一中)ハ二月上旬以來「ザウイタヤ」附近ニ於テ過激派蜂起シテ良民ヲ苦メ且鐵道衛工物ノ破壊ヲ企テアルノミナラス我守備隊ヲ襲撃センコトヲ企テツアルノ報ニ接シ十一日一部ヲ以テ之カ討伐ニ從事セシメ在「ブラゴエシチエンスク」山田少將モ亦之ニ協同セシムル爲堀少佐ノ指揮スル一支隊ヲ派遣ス、兩支隊ハ所々ニ轉

戰酷烈ナル祁寒ノ裡ニ隱顯出沒スル過激派ヲ掃蕩セシカ就中十七日堀支隊ハ「アンドレフカ」附近ニ於テ約五百ノ敵ト衝突シ激戰二時間ノ後之ヲ撃退シ敵ニ多大ノ損害ヲ與ヘ戰場ニ遺棄セシ死體ノミニテモ約二百ニ達セシメタルカ我支隊モ亦堀少佐以下將校五、下士以下四十ノ死傷ヲ生セリ

山田少將ハ過激派ノ情況侮ルヘカラサルモノアルヲ以テ之ニ打撃ヲ加ヘ後患ヲ除キ露國良民ヲシテ帝國軍保護ノ下ニ其堵ニ安ンセシムルノ要アルヲ察シ主力ヲ擧ケテ掃蕩ニ從フニ決シ二月二十日「ブラゴエシチエンスク」ヲ出發シ敵ノ巢窟タル「イワノフスコエ」ニ向ヒ前進シタルニ敵ハ我軍ノ來攻ヲ聞キ倉惶トシテ地方ノ壯丁ヲ拉シ物資ヲ掠メテ北方ニ向ヒ遁竄セリ茲ニ於テ山田支隊ハ之ヲ追躡シテ二十四日「アレキセーフスク」ニ達シ折柄「ハバロフスク」ヨリ同市ニ到着セシ田中少佐ノ大隊(一中隊缺)ヲ「ユフタ」附近ニ派遣シ敵ノ退路ニ逼迫シテ一舉ニ之ヲ捉ヘントス、田中大隊ハ二十五日「ユフタ」ニ達シ更ニ二十六日「チエデノフカ」附近ニ前進シタルニ敵ハ後ニハ山田支隊ノ急追スルアリ前ニハ田中大隊ノ其進路ヲ扼スルアリ進退谷マリタル結果比較的弱勢ナル田中大隊方面ヲ衝キテ重圍ノ裡ヨリ脱出セントシテ窮鼠ノ如ク田中大隊ニ對戦セシヲ以テ大隊ハ我二十倍スル敵ノ包圍スル所トナリ茲ニ全隊壯烈ナル戦死ヲ遂ケタリ(生還セルモノ僅カニ負傷者九名ノミ)

先是高橋支隊ハ山田支隊ニ策應シテ其東方地區ヲ「アレキセーフスク」ニ向ヒ行動中更ニ北方ニ

MT

16324 17

0745

MT

16324 17

0744

390909

前進シテ敵ノ退路ニ迫ルヘキ命ヲ受ケ「ユフタ」北方ニ前進セシカ敵ハ田中大隊ト交戦後退却  
 方向ヲ轉換シテ東北方ニ向ヒ退却シ高橋支隊ノ急追ノ爲停ルコト能ハスシテ三月二日「バウ  
 ロフスコエ」ニ達シ翌朝同地ニ於テ「ボチカレオ」ヨリ前進シタル我高橋大佐ノ指揮スル一部  
 及高橋支隊ノ夾撃ヲ受ケ遂ニ五百ヲ下ラサル大損害ヲ受ケ潰亂シテ南方ニ退却ス、  
 山田支隊ハ益々敵ヲ急追シ三月十日「ブレヤ」ニ達シ新ニ増加セラレタル第十二師團ノ田所隊  
 (田所大佐ノ指揮スル歩兵約七百ヲ基幹トス)及第三師團ノ岡田隊(岡田大佐ノ指揮スル歩兵  
 約七百ヲ基幹トス)竝第二航空隊ヲ併セ指揮シ鐵道ニ沿フテ北進スル敵ヲ追撃中ナリ  
 敵ハ途中或ハ停車場ヲ破壊シ鐵橋ヲ燒却シ或ハ村落ヲ掠奪シ壯丁ヲ奪ヒ婦人ヲ辱メテ退却セ  
 シモ我軍ノ急追ニ依リ既ニ鬪志ヲ喪ヒ其郷閭ニ遁ルルモノ相踵クノ情況ナルヲ以テ近ク該方  
 面ノ過激派ハ鎮定スヘシト信ス

以上ノ如ク我軍力適時過激派ノ計畫ヲ謀知シ速ニ之ニ應スルノ處置ニ出テ軍隊ハ祁寒ヲ冒シ缺  
 乏ニ堪ヘ善戰奮闘セルカ爲容易ニ彼等ノ企圖ヲ挫折シ首領「ムーヒン」ハ三月八日露軍ノ手ニ逮  
 捕セラレ茲ニ一段落ヲ告クヘキニ依リ昨夏以來各地ニ轉戦シ帝國軍ノ威武ヲ中外ニ發揚シタル  
 第十二師團ノ勞苦頗ル多キニ顧ミ此時機ニ於テ他師團ト交代シ内地ニ歸還セシムルヲ適當トス  
 第七師團ハ既ニ駐屯期ニ達スルヲ以テ近ク第十六師團ト交代歸還セシムヘク第三師團モ  
 亦時機ヲ見テ他師團ト交代セシムルノ要アルヘシ

大正八年一月以後過激派討伐死傷表

大正八年三月二十五日調

區分	階		級	第三師團	第十二師團	計
	將	下				
戰死	計	計	校	八	八	一六
	將	下	卒	二九三	二七七	二八五
負傷	計	計	校	九	一四八	一五八
	將	下	卒	一三九	一四九	二八八

五

四

MT 16324 17

0747

MT 16324 17

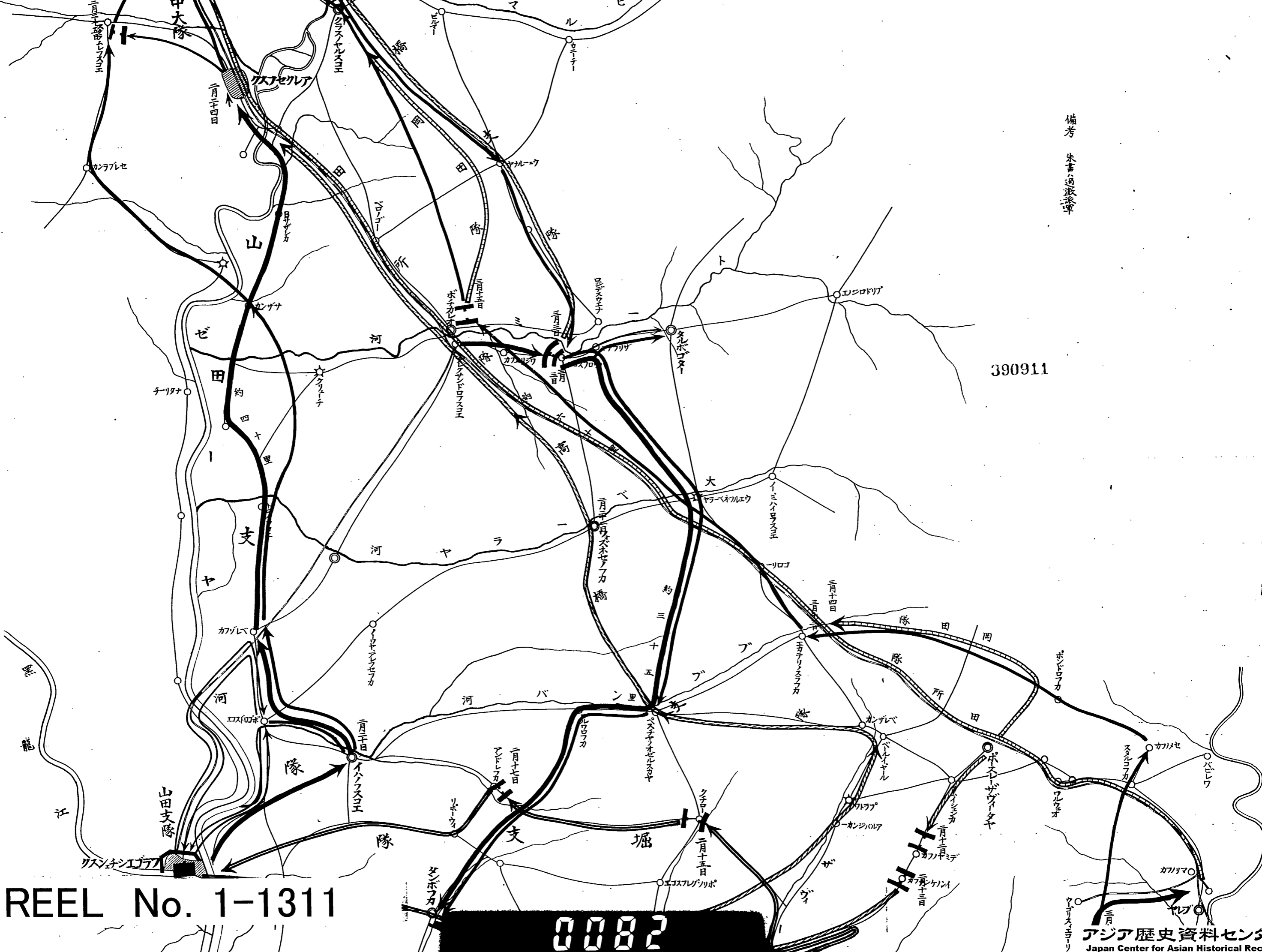
0746





備考 朱書 過激派軍

390911



REEL No. 1-1311

0082

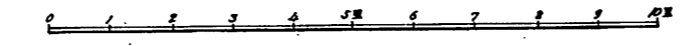


390913

390912



16324 17



0748-1

REEL No. 1-1311

0083

第一門

第一課

390914

秘授03841號

附屬書類添附

大正八年四月四日

軍政後密送 第一五號

軍政務部 法 第三課

大正八年三月廿五日

浦朝政遺軍政務部長 松平恒雄

外務大臣 子爵 内田 康哉 殿

西比利亞地方秩序維持ノ為聯合

軍ノ兵力使用方ニ関スル件

西比利亞地方ニ於テ秩序維持ノ為兵力ノ使用ヲ必要ト  
スル場合ニ於ケル大谷司令官ノ指揮權ニ関シ先般米  
軍司令官ガレブス少將ヨリ申越ノ次第ハ本月十  
四日附軍政機密送第九號ヲ以テ及報告置候處  
其後同少將ヨリ英國側ヘモ何等詔合タルモノト見

時局変化  
長官御座

軍政務部 印

MT 16324 17

0749

REEL No. 1-1311

0084

390915

工右ニ関シ、サレ、クヤリス、イリオント、ヨリ別紙甲号  
 写ノ通り申越ノ次第有之候處右ニ関シ、イリオント  
 氏ハ元来本件ニ関シテハ日英間ニ何等意思ノ相  
 違アルト思ハサレ、米軍司令官ニ於テハ、一、謬見ヲ有  
 シ、問題ノ惹起セル為、英軍司令官ヨリモ特ニ自分  
 ニ請訓セルヲ以テ、訓令ヲ與フルニ際シ、一應日本側  
 ノ意向ヲ確メントスルモノニ決シテ他意アルニアラサル  
 旨ヲ用陳セルニ付、當方ニ於テハ、我軍憲章ニ協議ノ上  
 前記申越ニ對シ、別紙乙号寫ノ通り回答申送  
 置候ニ付、テハ、各細別紙ニ就テ、尚承知相成度、右  
 御参考迄ニ別紙相添ヘ、此後及報告候、敬具

MT 1632417

0750

REEL No. 1-1311

0085



COPIE

Vladivoatok, March 21st, 1919.

My dear Colleague,

In reply to your letter of the 18th instant concerning the relations existing between the Commanders of ~~the~~ Allied troops and General Otani I beg to state that no troops under the command of General Otani will be used to suppress political movements except in so far as such movements may interfere with safety and freedom as mentioned in your letter.

Your sincerely,

His Excellency

Sir Charles Eliot.

390917

MT 16324 17

0751

REEL No. 1-1311

0086

Vladivostok.  
March 18th 1919

My dear Colleague.

You are, I believe, aware that the question of the exact relations existing between the Commanders of Allied troops in Vladivostok and General Otani has recently formed the subject of discussion here. A few days ago, General Himsley and General Blair asked me for instructions on this subject and I gave them the following reply.

The objects for which the British forces are in Siberia include insuring the safety of life and property as well as freedom of transport and passage in Vladivostok. British troops in Vladivostok are under General Otani's orders for these purposes.

But I do not think that British troops could be properly used to suppress political movements except in so far as such movements may interfere with safety and freedom as mentioned above. I feel sure that there is no danger of their being used for any purpose to which political objections might be raised, because the Japanese Government have frequently stated that they do not approve of intervention in the internal affairs of Russia.

I hope therefore that we are in entire agreement on this matter.

Yours sincerely,

Blair

Monsieur Tsuneo Matsudaira,  
Vladivostok.

390916

MT 1632417

0752

0087

REEL No. 1-1311

大正八年四月十四日接受

駐露公使館

策課

四月十四日午後四時發  
上時五十分著

電報

宛

在

黑澤 大佐

390918  
授受04318號

浦潮新聞より轉載シ一方於テ最近後貝加爾州ボ  
ルチキ北方地區ニ於テ「軍ノ討伐隊將校  
在下士卒約三十名ヲ過激派側ニ殺戮シタル記  
事」ヲ証シ米國側ノ主張ノ矛盾ヲ力説シ日本軍ノ  
誠意アル援助ト對照シ米國當事者ノ見解ニ関スル  
不満ヲ詳述セリ (各方面済)

陸軍

MT

16324 17

0753

REEL No. 1-1311

0000

式部省事務官 藤田 芳

大正八年四月十四日接受

警務局

第三課

四月十一日

四月十日午後五時五十分至十一日午前十時三十分著

黒澤 大佐

電報

恭謀次長宛

黒弟七八号

390919  
秘  
被受04319號

第門

一、日裏ニツエルフネニ赴キタル米國軍ハ未タニ列車内ニ起居シタル由ナルカ近頃在「チタ」米國中尉「バツグ」セ「ヨ」フ司令部ニ來リ兵營ノ融通ヲ請ヒタル際同司令部ニテハ兵營ハ現在兵員ノ外新募兵等ヲ入ル、為必要ニテ希望ニ應シ兼ヌル旨ヲ答ヘタリト  
ニ米國人ニ對シ當地方下級者ハ固ヨリ敢テ惡意ヲ懷カス部分的ニハ寧マ好意ヲ有ルカ如キモ知識階級者ハ過激主義ノ者ヲ除キ反對ニシテ米國兵ノ如キ

陸

軍

ハ俸給豊カニ飲酒遊樂ヲ好シ却テ害毒ヲ流スモノトシテ輿論感ズルモノ尠ナカラス元「チタ」市長タリシ「レ」エシメンツエ「ラ」ノ如キハ米國人ハ下級労働者ニ被服類ヲ救済セルコトアルモ彼等ハ直チニ之ヲ賣リ酒代トスル有様ニシテ寧マ有儀ナル旨語レリ  
(各方面済)

MT 16324 17

0755

MT 16324 17

0754

REEL No. 1-1311

0089

第一課

390920

祝授04590

大正八年四月廿一日

駐務局長 第二課

西密第一八二號

露領及北滿洲派遣部隊編成並歸還部隊  
復員ノ件通牒

大正八年四月十九日 陸軍大臣 田中義

外務大臣 子爵 内田 康哉

去ル四月一日露領及北滿洲派遣部隊ノ編成ヲ令セ  
ラレ又左記部隊ハ編成地ニ到着シ上復員スヘク令セラ  
レ候條及通牒候也

左記

関東兵站監部

第十二師團兵站監部

関東野戦砲兵廠

第十二師團野戦砲兵廠

関東野戦工兵廠

第十二師團野戦工兵廠

関東野戦衛生材料廠

第十二師團野戦衛生材料廠

関東被服補修部

第十二師團被服補修部

第十二師團兵站病馬廠

第十師團第六陸上輸卒隊

第三師團野戦電信隊

兵站電信第一第三第五中隊

臨時電信隊

野戦電信第十八中隊

第十二師團臨時兵站電信隊

MT 16324 17

0757

MT 16324 17

0756

REEL No. 1-1311

0090



西報

歐洲戰爭交戰國事情

西比...

大正八年四月廿三日接獲

駐政務

第二課

支

西密第一八四號

第七師團應急準備解除ノ件通牒

大正八年四月二十一日 陸軍大臣田中義一

外務大臣子爵内田康哉

陸軍部

第七師團(歩兵第二十七聯隊第三大隊)ハ歸還、為派遣  
地出發、時ヲ以テ應急準備ヲ解除スヘク令セラレ候  
條及通牒候也

第3門

要領 04729 號

陸軍

MT

16324 17

0759

REEL No. 1-1311

0092





か帝國政府ニ於テモ特ニ過軍討伐事件ニ関シ  
テハ慎重ノ注意ヲ拂ヒ居リ過般來療費醫藥品  
給與物品救恤其他無料施療等有ラユル方法ヲ  
以テ良民擁護窮民救護ニ専念シ一意友邦ノ秩  
序恢復ニ腐心中ノ次第ハ十分御承知ノコトト  
存スルモ差当リ州内人民中ニ誤解スルモノア  
ルハ畢竟遠方ノ針小ノ出来事ガ棒大ニ吹聴サ  
ルルニ原因スルコトモアルベク何レニセヨ日  
露兩國国民ノ親交上面白カラザル義ニ付此際当  
地各新聞社ヨリ有力ナル記者一二名宛テ州内

0762

MT 16324 17

各地曾テ日本軍ノ出動シタル地方ヲ普ネク旅  
行セレノ極メテ公平ナル視察ヲ遂ゲ日本軍ノ  
行動中ノ實蹟ヲ踏査シ善所ハ之ヲ善トシ不善  
ハ不善トシテ忌憚無ク其公平ナル所見ヲ各自  
ノ新聞紙ニ発表セレノ度キ考ナルガ日本軍ト  
テ其規律ノ峻嚴ナルハ世界周知ノ通ナルモ何  
分ニモ言議ノ不通習慣ノ相違等ニ依リ相互ノ  
誤解ヨリ不測ノ間違ヒヲ東レタルコトモアル  
ベキニ依リ元ヨリ萬全ヲ期シ難カルベク右露  
國記者ノ見聞ニ依リ萬一日本軍ノ過チニ属ス

0763

MT 16324 17

390924

ベキモノアラハ我方ハ十分之ヲ改メ又ハ相当  
賠償陳謝スルニ躊躇セサルベク要スルニ叙上  
ノ方法ニ依レハ日露兩國民ノ親交ヲ一層敦厚  
ナラシムルヲ得ベト語リタリニアモ心ヨリ  
我計畫ヲ賛成シ右ハ極メテ良策ナリ是れ共實  
行セラレ度シトノコトニ付本官ハ更ニ師團長  
ト協議ヲ遊ゲ四月二十六日当地「エーホ」及「ピア  
ムール」スカヤビュニ西新聞社ノ各主筆ヲ師  
團長方ニ招キ前記ノ趣意ヲ述べタルニ西主筆  
共大イニ本計畫ヲ賛シ結局右西新聞社主筆各

0764

MT 16324 17

一名宛ヲ派遣スルコトナリ此一行ニ我師團  
司令部ヨリ一將校ヲ附隨セレノ途中ハ軍用列  
車ニ依リ四月三十日当地ヲ出發スルコトナ  
レリ尤モ途中一切ノ便宜ハ我師團ニ於テ供與  
シ都合ニ依リテハ其傍ニ報エル為ノ相当ノ謝  
禮ヲ為ス等ナリ御參考迄  
政務部長ニ電報セリ、

0765

MT 16324 17

REEL No. 1-1311

0095

390925

電信課長

大臣  
次官

七五

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

七略

ブラゴエ祭 五月廿九日迄、五一  
奉有者 五月一日前九、一五

内田外務大臣 平坂副領事

第九四號

過般来吉州過激派軍討伐中、我第  
十二師團軍隊、五月廿九日、吉州内  
一交替帰還、類ナル處討伐中、吉州内  
各地方ニ於テ、軍用物品馬匹等ヲ住  
民ヨリ徵集シ、其、都度被徵集者、討  
シ、一々証書ヲ交付シ、置キ、タカシガ支出

(西原親也より)

ニ付、四月廿五日以前ニ、全軍ヨリ、徵集、討シ  
祭シタル証書所有者、五月廿九日迄、「ブ市」  
「アレクセイフスク市」「ホチカレラホ」及ビ「サビ  
クヤ」所在、軍用物品徵集物賠償金支  
拂所、出頭支拂ヲ要ス、四月廿九日迄  
、物分ニ対シテ、追テ別ニ支拂所指定ス、キ  
吉州内一般、公告圖知セシム、目下、未  
自配中ナリ、御参考迄  
政務部長、轉電ス

MT

16324 17

0767

MT

16324 17

0766

大正八年五月三日 接獲

陸軍省 第三課

支

五月一日

五月一日 浦潮軍参謀長

電報

次長宛

浦参第九一三號

第十一師團報

390926 秘授05079號

外

日本軍ニ非常ナル有義ヲ表スル「アレキセイフス」市會議  
 員「ダニコフ」ハ日本軍ト共ニ行動シ「レ」市西方「イワノフカ」ス  
 パスコエ「セレブリヤンカ」チゴ「カ」カ「レ」ロガ子ヨ「カ」六村  
 於テ日本軍ノ徳ヲ稱ヘ日本軍カ「レ」市到着以來ノ行  
 ヒタル施療救恤廉價等ヲ説明シ日本軍ハ農民ノ  
 同情者ニシテ敵「アラ」セル「ト」明カニ「特」鐵道運行ノ行  
 ル「ハ」ニ日本軍ノ行ニ係ルモノニシテ 其恩惠ノ大ナルコトヲ  
 説明シ各人業ヲ勵ミ何人ノ煽動ニモ乗ニ「ル」様訓諭  
 セリ日本軍ノ布告及「ダニコフ」訓諭ハ農民ノ好感  
 ヲ以テ迎ヘ「レ」タリ

MT 16324 17

0769

MT 16324 17

0768

REEL No. 1-1311

0097

390927

電信課長

大臣  
次官

トビ

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

四六二七  
暗

ブラゴエ祭  
本着着

志の年首

七日前  
ハ日九、三五

内田外務大臣

平塚副領事

第一〇四號

拙電第九〇號ニ關シ当地露字新聞記者二名ハ跡踏調査、高ノ目下「セイヤ」河支流上流「トル」ハカタイ「ボチカレイ」ホ「駆」東北方) 地方旅行中ナルガ其、報告ニ未ダ新聞紙上ニ現レザルモ右記者等ハ後日日本軍、行秘伝隊ハハハハ

西の方  
七、十日ハ河内ニ在リテハ日軍ノ行部

動、付<sup>各地</sup>多ク不詳判、處アリシトモトシテ通報、不完全ナリシ、起因セルコト実跡踏査ニヨリハ際トナリタリトテ各地村民、直話ニ因リ日本兵ハ一旦事理ヲ了解セバ秋高ニ犯ス處ナリ直ニ尊厳ニキ国民ナリト附添、并將校ニ對シ常ニ懇話シ尙未記者一行ノ通過村落中ニ留守備兵、駐モル所ニテハ村民何レモ全然日本兵ニ信頼シ事ホトナリ其、守備隊長、謀リタル上実行シフ、

MT 16324 17

0771

MT 16324 17

0770

390928

アリ露国民ト日本兵ト斯リ迄ニ接近ス  
ベシトハ思ハカリシト前記記者ヲ本館ニ  
私信アリタリ也参考ス  
政務部長ニ電報ス

MT 16324 17

0772

REEL No. 1-1311

0099



秘授 5797番

大正八年五月十七日接受

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

復第六號

左記部隊ノ復員ヲ令セラレ

名古屋衛戍病院

岐阜衛戍病院

津衛戍病院

小倉衛戍病院

大分衛戍病院

福岡衛戍病院

大正八年五月十七日午後一時

陸軍大臣 田中義一

外務大臣 子爵 内田康哉 殿

陸軍

MI

16324 17

0773

REEL No. 1-1311

0100

第門

大五

大正八年六月十四日接受

陸軍省、第三課

陸相ヨリ外相宛

浦

浦潮派遣軍參謀長電報

(六月十三日發)

390929

178

累次報告セシ如ク黑竜、烏蘇里、沿線過激派、跳梁逐次  
其度ヲ昂メ、鐵道ノ被害亦頻發シ兵力ノ關係ハ鐵道ノ掩護ス  
ラ其確實ヲ期シ難ク今ヤ第十二師團ノ帰還輸送ニ大ナル支障ヲ生  
ズキ、虞アルニ至レリ況ヤ過激派ハ黑龍、烏蘇里鐵道ヲ根柢的ニ  
破壊スルノ決意アリト聲明セアルニ於テオヤ

浦、信、兵、兵、兵

軍ハ隸下部隊ノ融通ニ依リ此支障ノ排除ニ努メアルモ寧ロ一時ノ  
彌縫ニ過キスレテ其十分ヲ保レ難ク加ヘ東清沿線日本軍用電  
線ノ被害頻發シテ兵力ヲ以テスル掩護ヲ必要トスルモアリ更ニ第十二師  
團師團重複配置ノ今日ニ於ケル狀況ニ鑑ミテ第十二師團帰還後ノ  
動乱ヲ考察スル時ハ大ニ警戒戒ヲ要スルモアリ而テ軍ハ今ヤ其融通シ  
得ヘキ兵力殆ト皆無ナルニ於テ第十二師團ヲ無事帰還セシメシカ為  
ニ兵力ノ不足ヲ感シ第十二師團帰還後ヲ顧慮スルトホハ一屬兵力

増加切要ナリト信ス故ニ電報第三七三號貴電ノ主旨ヨリ其兵  
力増加ハ今日實ニ其決行ノ時機ナルヘキヲ確信シ敢テ予ノ觀ル  
所ヲ具陳シ御考慮ニ供スル次第ナリ

MT 16324 17

0775

MT 16324 17

0774

手紙子 (署名)



390931

極秘

(大正六年六月十七日閣議決定)

陸軍省

第五師團ノ部ヲ急速ニ浦潮方面ニ  
派遣ノ件

極東露軍ハ微力ニシテ未タ持ッ足ラス過激派ノ跋扈  
跳深ハ目ヲ逐フテ甚シク第三及第十四師團ハ鐵道沿  
線千五百里ニ涉リテ散在シ浦潮ノ兵力ハ銃數僅ニ三百  
五十ヲ算スルニ過キス今ヤ歸還ノ途ニ在ル第十一師團ハ交通  
線ノ支障ニ遭遇シテ輸送ヲ繼續スル能ハサルノ状態ナリ  
而シテ後貝加爾州ニ在ル第三師團ハ追テ之ヲ交代セシムハ  
キコトハ曩ニ閣議ニ於テ決定セラレタル所ニシテ之カ交代ノ任ニ  
當ルキ第五師團ノ内先ツ歩兵一旅團騎兵一中隊及工兵一  
中隊ヲ基幹トスル部隊ヲ急速ニ浦潮方面ニ派遣シ刻下  
ノ狀勢ニ應セシメントス

MT 16324 17

0778

MT 16324 17

0777

大五  
極秘

390932

電信案(暗号)

政務局第二課

内田大臣

電送第百五五七八一號  
八年六月十八日 時分發

左米軍大使 (在政各大使及丸毛(轉電)アリ)  
左支小幡公使 (アハニ七号)  
左浦潮松平政務部長 (菊池(傳)アリ)  
左哈爾濱佐藤領事 (松島(轉電)アリ)

第 號

外務省

六月十七日  
同日左ノ通閣議決定アリ

極東露軍ニ微力ニシテ未ク恃ム足ラニ過激派ノ跋扈跳梁ハ日ヲ逐テ甚シク第三及第十師團ニ鐵道沿線千五百里ニ涉リテ散在シ浦潮ノ兵力ニ銃數僅ニ三百五十ヲ算スルニ過キス今ヤ歸還ノ途ニ在ル第十二師團ノ交通線ノ支障ニ遭遇シテ輸送ヲ繼續スルニ能ハズノ状態ナリ而シテ後貝加爾州ニ在ル第三師團ノ追テ之ヲ

MT 16324 17

0780

MT 16324 17

0779

REEL No. 1-1311

0104

390933

交代せしむヘキコト、日晨閣議ニ於テ決定セラレタル所  
ニレテ之カ交代ノ任ニ當ルヘキ第五師團内先ヲ歩兵  
一旅團騎兵一隊及工兵一中隊ヲ基幹トスル部  
隊ヲ急速ニ浦潮方面ニ派遣シ刻下ノ状勢ニ應セ  
シメントス

（米國ノ）以上兩洋法之、國旗ニ米國軍ヲ懸置  
打切ニ  
最近ノ情況  
六月十三日、スバスカヤ守備隊七ノ増援ニミシハ、米軍ハ

外務省

シマコカ、ソラエウスキ、西代ニホリ召居候ト  
ヒ双方ニ死傷アリタルカ右ノ如ク米軍ハ第一上  
等ノ裝束ニハ正秘密アリシト云フ、本  
半軍ニホリ召居候ト云フ、本  
ヤルニ連テ指サシテアリ

MT 16324 17 0782

MT 16324 17 0781

REEL No. 1-1311

0105

390934

大臣  
次官

電信課長

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官



改訂  
一〇〇日

東京發  
右署署長  
三月前

日外務大臣  
小幡三使

第八九〇號

外交部より六月十七日附書より以て  
濱江道尹、電報に依り、横濱河子  
點、向六月二十日日本歩兵十八名又  
五月二十日歩兵十五名隊長一名共、到  
署シタルが右兵員ハ何れも第六師團  
中之聯隊所屬ニ同地ニ在ル前露  
極云後ハ云々

右署署長  
電報に依り

駐留ニ日本軍計設、軍用電線  
守護ノ為、東横とトコト、自日本  
側ニ對シ、可然ニ交渉アリ、右ノ古昔林  
省長、對日軍ヨリ電報アリ、且、替辦  
兵戰事務所ヨリ、右派遣兵撤  
退方中、出アリ、ルニ自テハ、高橋ヲ確  
多ル上、速ニ撤退方言、力アリ、古  
申、出テ、アリ、然テハ、其、筋、ニ、秋、田、師  
ノ、上、置、形、政府、對、シ、回、答、振、脚、電、報、ニ、依、リ、  
略、多、層、ニ、材、ニ、電、報、アリ

MT 16324 17

0784

MT 16324 17

0783

REEL No. 1-1311

0106



臨時西比利經  
濟援助委員會

11

秘 7624

大正八年六月廿三日接受

陸務局

第三課

六月二十三日

六月二十三日午後五時五分發  
六月二十三日午後五時五分着

電報

宛在

宛在

次長

福田第四師

第五師團ノ先遣部隊ヲ急派ヤルルコトナリタルニ就テハ

軍司令官ハ此際島嶼軍地方ノ過激派ヲ速ニ討伐スルニ

決心ヤラレタリ而シテ討伐後成ルル連二瓜地方ニ對シテハ

所要ノ救恤約三十萬(三十萬円トシ内地ニ現品ヲ準備

スルヲ可トス)ヲ必要ト信スルヲ以テ豫メ御考慮ヲ煩ハレ度

尙軍ノ討伐計畫ハ追テ報告ス

MT 16324 17

0786

陸軍

第一門

390935

7559

大正八年六月廿一日接受

陸務局

第三課

支那事務(島嶼)課長

復第七號

第二航空隊ノ復員ヲ令セラル六月下旬復員スル

豫定ナリ

大正八年六月二十一日午後一時

陸軍大臣 田中義一

外務大臣 子爵 内田康哉 殿

陸軍大臣 田中義一

陸軍

MT 16324 17

0785

0107

REEL No. 1-1311



390936

勅受 7680號

秘

第3門

大正八年六月廿四日接受

陸軍省 管務局 第二課

大正八年六月廿四日

編第十八號

步兵第九旅團、同旅團步兵聯隊留守隊、騎兵第五聯隊第二中隊、工兵第五大隊第一中隊、編成ヲ令セラル

編成第一日ハ六月二十五日ナリ

陸軍大臣 田中義一

外務大臣 青木宣親

陸軍

MT

16324 17

0787

REEL No. 1-1311

0108

390937

参受 7738號

大正八年六月廿六日接受

駐政務局 第三課

スウ

支那兵隊の...

参一發第八十一號

大正八年六月二十五日

参謀總長

通報

一極東露領殊<sup>ニ</sup>沿海州<sup>ニ</sup>於ケル過激派頃者擡頭ノ色アリ

全回...

戸五師

田月

第門

キ豫定ナリ

二叙上不稳ノ情勢<sup>ニ</sup>替ヘ第五師團ヨリ左記部隊ヲ浦潮

ニ派遣シ一時浦潮軍司令官ノ指揮下ニ入ラシメラル

歩兵第五聯隊第二中隊

二兵第五大隊第一中隊

右諸部隊ハ七月二日ヨリ外地ヲ出發スル豫定ナリ

MT 1632417

0789

MT 1632417

0788

REEL No. 1-1311

0109

參一發第八十二號

大正八年六月二十五日

參謀總長

通報

露領及北滿洲派遣部隊編成要領第六條ニ基ク左記  
部隊ハ六月十九日ヲ以テ全部編成地ニ歸還ヲ了レリ

關東兵站監部

第十二師團兵站監部

關東野戰砲兵廠

第十二師團野戰砲兵廠

關東野戰工兵廠

第十二師團野戰工兵廠

關東野戰衛生材料廠

第十二師團野戰衛生材料廠

關東被服補修部

第十二師團被服補修部

第十二師團兵站病馬廠

第十師團第六陸上輸卒隊

第三師團野戰電信隊

兵站電信第一、第三、第五中隊

臨時電信隊

野戰電信第十八中隊

第十二師團臨時兵站電信隊

第一、第二無線電信隊

第三師團第一乃至第四野戰病院

第十二師團第一乃至第四野戰病院

野戰豫備病院第七、第二十二班

MT 16324 17

0791

MT 16324 17

0790

390939

臨時患者收容班  
關東兵站病院  
第十二師團兵站病院  
第一第二野戰防疫部

MT 16324 17

0792

REEL No. 1-1311

0111

録

秘密

秘

電報  
宛 在  
浦参第一三四六号  
貝加爾湖畔セレンガ河河口附近ニ於テ若干ノ兵護衛、  
下ニ養魚ニ関スル調査実施中、又護衛兵ヲ出  
シ得

七月七日 午後七時—  
午後十時十七分着  
浦参軍参謀長

川越  
受  
7.10  
浦参

七月八日

陸軍

MT 16324 17

0794

録

門

390940

秘密

電報  
宛 在  
浦参第一三四六号  
セレンガ河河口附近ニ於テ若干ノ兵護衛、  
下ニ養魚ニ関スル調査実施中、又護衛兵ヲ出  
シ得

七月七日 午後七時—  
午後十時十七分着  
浦参軍参謀長

七月二日

六月三十日 午後三時三十分着

浦参軍参謀長

陸軍

MT 16324 17

0793

歐洲戦争時日本軍情報告 第六

390941

8015 秘

浦参甲  
再已報  
佐之助  
陸軍部  
支那軍  
支那軍  
支那軍

大正八年七月三日 接 陸政務局 第一課

電報

七月二日

參謀總長宛

在

東 少 將

支極科中六五号

支極科中六五号 横道河子派兵一件 二團シテ、由

中將ヨリ浦参甲第五五号ノ一 通返電アリシニ依リテ

月二七日 徐樹錚ニシテ 改電報ノ要旨ヲ筆札シテ

シニ右派兵ハ 俄軍用 電線保護ノ為 万田ハ得サレ

ルニシテ 又置ニシテ 支那軍ノ 鉄道 準備ニシテ 隊

又ハ主權ヲ侵害シタル 次第ニシテ 支那軍ニシテ 通信

保護ノ実績 明瞭 ナルニ到ラバ 日本軍ハモテ

撤兵ヲ実行 スルニ依リ 支那政府ニシテ 支那軍

地方長官ニシテ 之シカ 監督ニ励行セシメラシ 兩方協

同防敵ノ精神ニ基キ 通信線保護ノ責ヲ尽

スルニ再任 事故ノ發生ヲ避ケ 棉致シ 彼ヨリ

シ 回答ニ 遣ケリ

MT 16324 17

0796

MT 16324 17

0795

REEL No. 1-1311

0113

大正八年七月十日  
海軍大臣  
第一課  
加藤中將

大正八年七月十日 接獲

海軍大臣 第一課

(加藤中將)

大正八年七月 九日 午後一時三十分 三笠局發  
十日 午前六時五十分 無線局着

發信者 第五戰隊司令官

受信者 海軍大臣

機密第七十二番 電報譯

九日午前十一時三十分三笠ヲ率テ陸軍運送船二隻  
ヲ護衛シ亞米利加灣着、何等抵抗無ク午  
後四時迄ニ步兵三箇大隊、騎兵一個小隊ニ  
兵一個小隊約二千一人揚陸ヲ終リ十日午前

一時三笠ヲ率テ浦塩ニ向ケ出港ス午前六時  
三分着ノ第十二駆逐隊ノ一艦ヲ殘シ揚陸地ノ  
掩護、警戒、通信、連絡ニ任セシム

390942

外務大臣

第一門

8372

大正八年七月十日 接獲

海軍大臣 第一課

(加藤中將)

大正八年七月 九日 午後一時三十分 三笠局發  
十日 午前六時五十分 無線局着

發信者 第五戰隊司令官

受信者 海軍大臣

機密第七十二番 電報譯

九日午前十一時三十分三笠ヲ率テ陸軍運送船二隻  
ヲ護衛シ亞米利加灣着、何等抵抗無ク午  
後四時迄ニ步兵三箇大隊、騎兵一個小隊ニ  
兵一個小隊約二千一人揚陸ヲ終リ十日午前

一時三笠ヲ率テ浦塩ニ向ケ出港ス午前六時  
三分着ノ第十二駆逐隊ノ一艦ヲ殘シ揚陸地ノ  
掩護、警戒、通信、連絡ニ任セシム

390942

秘 8371

外務大臣

REEL No. 1-1311

0114

本隊が浦潮派遺軍司令官の報告を待たずして、七月十日、其の根拠ヲ

大正八年七月十二日接

駐政務局 第二課

密

参一發第八十五號

大正八年七月十日

参謀總長

390943 8419 號

第門

一、曩ニ露領ニ派遣ヲ命セラレタル第五師團の一部ハ七月六日ヲ以テ全部露領ニ到着シ浦潮派遺軍司令官ノ指揮下ニ入レリ  
二、浦潮派遺軍司令官ハ南部沿海州ニ於ケル過激派ノ暴狀ニ鑑ミ第五師團ノ一部ノ來著ヲ機トシテ其根拠ヲ剿滅スルニ決シ大要左ノ如ク部署シ第三艦隊ノ一部及米露軍モ亦之ニ協力スル筈ナリ  
三、南部討伐隊  
步兵第六十八聯隊長金田大佐ノ指揮スル步兵約三

大隊ヲ基幹トスル南部討伐隊ハ七月九日浦潮ヲ出發シ「アメリカ」灣(浦潮東方約二十五里)ニ上陸シ蘇城方面ニ於ケル過激派ノ根拠ヲ剿討ス  
四、北部討伐隊  
浦潮派遺軍兵站部長志岐中將ノ指揮スル步兵約六大隊ヲ基幹トスル北部討伐隊ハ七月十日其ノ行動ヲ開始シ先ツ烏蘇里鐵道ニ沿ヒテ北進シ尋イテ河ウビハ(河烏蘇里河朝流)谷ヲ南下シ同河谷ニ於ケル過激派ノ根拠ヲ剿討ス

MT 16324 17

0800

MT 16324 17

019799

REEL No. 1-1311

0115



外

390944

(秘) 8422

秘 8422

大正八年七月十二日接受

陸軍省 第二課

電報

總務部長宛

在

浦潮軍參謀長

七月十日  
九時半後九時十五分  
十日午前九時七分

浦参第一二五八号

福田報ニ依レハ最近「ウラ」戦線ノ情况不利ナルコト從ヒ  
 「エカ」テリンブルグニ在リシ英軍歩兵大隊ハ急ニオムスルニシテ  
 揚ケ其他砲兵隊使用ノ英國將校等隊務ヲ去リタ  
 ル爲英軍ノ評判直ニ下落シ爲ニ「ガイ」ダ軍參謀長  
 ハ英軍ノ爲辯明的命令ヲ發スルニ至レリト

次長 濟

陸軍

MT 16324 17 0801

REEL No. 1-1311

0116

390945

第...門

次  
大五

受21756

附屬...

大正八年七月拾八日接受

駐露高桂 第三課

政 五七

大正八年六月二十九日

在ニコラエウスク

領事代理副領事 石田 邦 樹

在ニコラエウスク日本領事館

外務大臣子爵内田康哉殿

第十二師團長告別状・関スル件

大井第十二師團長ハ第十四師團ト交代

歸朝ニ際シ別紙原譯文ノ通り廣ク露

國人ニ對シ告別状ヲ配付セラルル市方面

ニ関シテハ適宜配布相成度旨全師團長

謀リ依頼越シタルニ付本官ニ於テ適宜

在ニコラエウスク日本領事館

選擇ノ上州長官以下露國官民三十餘名

ハ夫々配布致置候右御報告別紙

相添以段申進候致具

或保子名... (長母氏名)

Table with multiple columns and rows, mostly blank or containing faint text.

MT 16324 17

0803

MT 16324 17

0802

REEL No. 1-1311

0117

№ 5.

В августе прошлого года 12 дивизия прибыла во Владивосток и начала борьбу с Гольцовскими у ст. Духовская. Разбит их, дивизия продолжала исполнять свое дѣло возстановленія порядка и спокойствія в Амурской и Приморской областях, и в теченіи 10 мѣсяцев японскіе отряды исполнили свое назначеніе, борясь с отъявленными мелкими бандами, и в настоящее время отряды проходят по области, заканчивая начатое дѣло.

В первое время между японскими отрядами и русским населеніем от непониманія языка и обычаев происходили нѣкоторые недоразумѣнія, но постепенно отношенія начали улучшаться и в настоящее время, отношенія эти, настолько улучшились, что почти не встрѣчается никаких недоразумѣній.

Я очень рад, что отношенія между русским населеніем и японскими отрядами стали дружественными, но, к моему сожалѣнію я долженъ поставить Вас в извѣстность, что 12 дивизія скоро должна будетъ покинуть Амурскую и Приморскую области и возвратиться в Японию.

В настоящее время порядокъ в Амурской области почти возстановлен, но нельзя сказать, что совершенно исполненъ.

Я прибыл сюда с дивизіей, чтобы возстановить порядокъ в Амурской и Приморской областях, поэтому я желалъ-бы остаться здѣсь еще, и вѣсть с Вами разговарывая Вами радостями и печальями Вашими печальями, но распоряженіе о моемъ возвращеніи в Японию уже получено и я ничего сдѣлать противъ этого не могу. Я очень и очень жалью, что я долженъ разстаться с Вами, но вѣсть с тѣмъ долженъ и поставить Вас в извѣстность, что вѣсть 12 дивизіи сюда прибываетъ 14 дивизія, которая будетъ продолжать дѣло, начатое 12 дивизіей, поэтому я надѣюсь, что Вы встрѣтите солдатъ 14 дивизіи дружески и будете жить с ними также тепло, какъ жили со мною и 12 дивизіей, и вѣсть с тѣмъ я благодарю Вас за постоинно—любозное отношеніе к нам.

Замѣчаяя письмо, я долженъ повторить, что я от души желаю, чтобы отношенія между русским населеніем, японскими войсками и японским населеніем были самыми дружескими и прощу Вас во время молчущихъ быть Сѣяков или сообразній передать мои пожеланія населенію области.

Желаю Вам скорѣйшаго возстановленія в Россіи законности и порядка.

Осталось готовый к услугамъ Начальникъ 12 дивизіи японскихъ войскъ Генералъ  
Лейтенантъ *Со-и*.

Июня 6 дня 1919 года  
г. Благовѣщенск.

390946

MT

16324 17

0804

0118

REEL No. 1-1311

拜啓益々御清榮奉賀候

昨年八月當師團ハ浦塩斯德ニ上陸シテ以來クラエフスキ  
附近ニ於テ過激派軍ヲ殲滅シ以テ沿黒龍州ノ鎮定ニ  
任シ爾來月ヲ重スルコト十箇月最近又々黒龍州ノ大討  
伐ヲ行フノ外各所ニ於テ小鬪ヲ交ヘ匪徒ヲ鎮壓シ以テ極  
東ノ秩序恢復ニ努メ申候此間時ニハ言語ノ不通習慣ノ  
相違等ニヨリ多少意志ノ疎通ヲ缺キテ有之候ヒシモ彼我  
相接觸スルニ從ヒ逐次了解スル所アリ今日ニ及ヒ候テハ到ル  
所何等蟠リモナク日露兩國民ノ融和ヲ見ツツアルコトハ  
本職ノ誠ニ欣喜スル所ニ御座候

然ルニ茲ニ本職ハ貴下ニ當師團カ近ク沿黒龍州ノ地ヲ  
去ルコトヲ通告スルノ餘儀ナキニ到リ申候目下沿黒龍州  
ノ秩序ハ既ニ殆ント恢復セラレ候モ未タ全然平靜ト稱スル  
ヲ得ス從テ地方秩序維持ニ任スヘキ本職ハ永ク極東ニ  
駐屯シ貴下ト禍福ヲ別タント決心致居候ヒシモ既ニ天命  
下達セラレ又如何トモナシ難ク誠ニ惜別ノ情ニ耐エサルモ  
有之候猶當師團ノ交代トシテ第十四師團之ニ當リ同  
様ノ任務ニ服スル次第ニ有之候ハ右師團ニ對シテモ當  
師團同様ノ御眷顧ヲ希ヒ得ルコト信シ申候  
茲ニ從未ノ御懇情ヲ感謝シ御挨拶申上度如斯ニ  
御座候

終リニ臨ミ重ネテ貴國民ノ益々御繁榮ト日露兩國民ノ  
一層親善ナラシメトテ祈申候  
尚集會等ノ折ヲ見計ヒ本職ノ意圖ヲ漏レナク傳告セラ  
レ度願上候

大正八年六月六日 第十師團長大井成元

敬具

MT 16324 17

0806

MT 16324 17

0805